

## 狂言学習とともに（6年生）

6年生の狂言学習が、本格的に始まりました。子どもたちには、日本の伝統文化である狂言について学びを深めてもらうとともに、実際に狂言を演じることで、ふだんの生活では学ぶことのできない貴重な学びや体験をしてほしいと願っています。

そして、自分たちのためにたくさんの方々が見えるところだけでなく**見えないところでも支えてくださっていることに気づいてほしい**と願っています。そして、**感謝の気持ちをもちながら生活をしてほしい**と思います。



狂言学習を通して、子どもたちが観ていた**視野がさらに広がりにながら、心を成長させたい**と思います。

10月12日（木）に、**山口耕道先生が、テレビ局の取材の中で、「子どもたちに、何を伝えたいですか」というインタビューを受けて**おられました。

山口先生は、「**自分の発したことばの反応を感じてほしい**」「**ガチガチになるのではなく、心地の良い緊張感を味わってほしい**」「**やり残したことが無いようにして、子どもたちが「ヤッターっ」と思えるようにして送り出してやりたい**」とおっしゃっていました。



子どもたちに、10月24日（火）の山口先生に動きや先生方のサポートについて、10月25日（水）に伝えました。

「昨日は、狂言学習の中で、初めての立ち稽古となりました。山口先生は、ご自宅を7：00頃に出発されて、学校到着は9：30分ごろになりました。2時間目の授業は9：35開始なので、学校到着後、すぐに着替えをされて、子どもたちの待っている多目的室に行かれました。

狂言学習（総合的な学習）では、変則的な授業時間帯を進めています。

子どもたちは、自分のタイミングでトイレ休憩やお茶休憩（水分補給）をとっています。

午前中の立ち稽古が終わった時点で、T先生が山口先生に、声をかけました。

「山口先生、大丈夫ですか。先生は休憩なして、お茶も飲まれていませんよ。」と。

子どもたちには、山口先生の思い（テレビ局の取材で、『子どもたちに伝えたいこと』について）や先生方の配慮について、伝えました。子どもたちは、「自分たちが、狂言の稽古をしている間に、山口先生や平庄の先生方が自分たちのためにたくさん動いてくださっていて有難い。感謝の気持ちをもたないといけない。」と言っていました。また、「(前半の)狂言の稽古が終わり教室に帰ると、既に給食が準備されていた。先生方がエプロンをつけて準備をしてくださっていた。」と、**感謝の気持ちを口にする子もいました。うれしいことです。**

# 日本の古典を楽しむ（図書館教育） ～狂言・落語の魅力にせまる～

6年生のみなさんへ  
『附子』等の読み語りを通して、演じ手のみなさんの  
脚本理解を応援しています。頑張ってください。

“平之荘神社での「狂言発表会」をより楽しむために”



11月23日（木・祝）の狂言発表会に向けて、学校全体で取り組んでいます。

図書館教育では、各学年に、「狂言えほん」や「落語えほん」の読み語りを担当者が行っています。

11月27日（金）の朝学では、6年生が「狂言えほん」の『附子』の読み語りを聴きました。最後には、1～3年生の“6年生の狂言に対する楽しみの言葉”を伝えてもらっていました。

6年生の狂言学習（狂言発表会）は、6年生だけでなく、1～5年生も、お家の方も、地域の方も、みなさんが大変楽しみにしています。

6年生の子どもたちは、ガチガチになるのではなく、山口先生のおっしゃる『心地よい緊張感』を観客と共に味わってほしいと思います。

## 【日本の伝統文化：狂言】

狂言は、庶民の日常生活や人間の滑稽な部分を題材にした喜劇です。ストーリーのおもしろさを感じ取って、クスッと笑えるといいですね。

## 1～5年生のみなさんへ

『附子』等の読み語りを通して、11月23日に6年生が演じる演目のストーリーを紹介してもらっています。6年生の表現を楽しみにしててくださいね。みなさんの反応が楽しみです。

